

平成25年度第1回 習志野市子ども・子育て会議 会議録

【開催日時・場所】

平成25年9月26日（木）午後3時～午後5時 習志野市役所仮庁舎3階大会議室

【出席者】

（委員）※50音順

飯島委員、稲垣委員、大塚委員、栢委員、佐々木委員、清水委員、杉田委員、臺委員、高橋委員
武井委員、菱田委員、藤本委員、三代川委員、茂呂委員

（市）

宮本市長、若林こども部長、井澤こども部次長、真田こども保育課長、和田子育て支援課長

小久保こども部主幹、山口保健福祉部主幹、浅野目青少年課長、笹生学校教育課管理主事

（事務局）

天野こども政策課長、小澤こども部主幹、大竹こども政策課主任主事、石橋こども政策課主任主事

金木こども政策課主事

【傍聴人数】

4人

【議題】

- （1）会長・副会長の選出について
- （2）習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項について
- （3）子ども・子育て支援新制度について
- （4）習志野市子ども・子育て会議について
- （5）習志野市子ども・子育て支援の現状について
- （6）その他

【次第】

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長挨拶
4. 議題
5. 閉会

【市長挨拶】

平成27年度の「子ども・子育て支援新制度」施行に向け、1年半という非常に短い期間ではあるが、支援の質、保育の量の確保に習志野市としても取り組まねばならない。

習志野市は都内への通勤圏として恵まれた地域であり、人口も平成29年まで伸び続ける見通しであることから、待機児童や小中学校の学区など、解決しなければいけない課題は多々ある。また、子ども・子育て支援新制度の対象となる子どもの年齢も18歳未満ということで、就学前児童から青少年まで、非常に幅広いものになっている。

この会議で検討していただくことは多々あるが、その内容は「子どもの未来に関わること」であり、この会議が未来の習志野の礎を担っているといっても過言ではないと考える。

委員の方々それぞれの見識に基づいた、忌憚のないご意見を頂戴したい。

【 議題 】

(1) 会長・副会長の選出について

会長：稲垣 美加子委員 副会長：臺 有桂委員 が選出された。

(2) 習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項（案）について

<事務局>

(資料1-1～1-3に基づいて説明)

資料1-1「習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項（案）」に基づいて会議を運営してよろしいか伺う。

<全委員>

異議なし。

(3) 子ども・子育て支援新制度について

<事務局>

(資料2に基づいて説明)

<副会長>

「子ども・子育て支援事業計画」については、いかに「習志野市らしさ」を計画中に盛り込むのかが非常に大切と考えるが、事務局でも既に方針のようなものが出来上がっているのか。

<事務局>

これまでも当市は次世代育成支援対策行動計画に基づき、子どもが健やかに育つまちを目指し、重点施策として子育て支援施策に取り組んできた。今後については、これまでの理念を継承しつつ、現代の子育てのニーズに合わせ、保育所の整備等新たな課題にも重点を置き、計画を策定していきたいと考えている。

<会長>

このような計画を策定する際、習志野らしさを計画に盛り込みたいことから、習志野市で子育てをされた委員の皆様の御意見をいただきながら策定してまいりたい。「保育の量の確保」という視点に偏ってしまいがちだが、地域の関係が希薄化する中、子育てに悩む保護者も増えているので、そういった方々への支援も非常に重要な問題になる。委員の方々には、御自身の地域の実情をこの会議でお話ししていただきたい。また、事務局にも、習志野市の子育て支援の先行事例等を抜粋し、わかりやすくまとめたものを資料として御提出していただきたい。

また、就学前の子どもの支援はもちろんだが、思春期、青年期の子どもたちをどう育てるのかということも重要な問題であるため、計画策定時にはそこを取りこぼさぬよう注意していただきたい。

(4) 習志野市子ども・子育て会議について

<事務局>

(資料3に基づいて説明)

<A委員>

今後27年度までに、この会議で協議することは、保育所の増設といった施設の整備に関する事なのか、もしくは、法案づくりに関する事なのか。この会議がつくろうとしている全体像がよく見えな

いので、もう一度説明していただきたい。

<事務局>

この会議の目的は、子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、計画の事項に対して御協議をいただくことである。「子ども・子育て支援事業計画」の内容としては大きく2つあり、まず、就学前の子どもの教育・保育を行う場の確保、そして、子育て支援事業の充実がある。この2つについて、子育てのニーズを勘案しながら審議を行い、平成27年4月までに計画を策定する運びとなる。

ただし、幼稚園・保育所・こども園等入園の申し込みが入園前年の10月頃から始まるため、保育を行う場の確保については、それまでに決めなければいけない。

以上のように、短期間にもかかわらず、決めなければいけないことが非常に多く、タイトなスケジュールであるが、皆様の御意見を頂戴し、より良い計画を策定したいと考えている。

<会長>

今、事務局より説明があったように、この子ども・子育て会議の役割は、「子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、内容を審議することだが、まず、既の実施しているニーズ調査の結果から導かれる保育需要の分析に対し審議を行う。この保育需要の分析に基づき、施設が整備されることになる。

また、計画については、大きく2つ、保育を行う場の確保と子育て支援施策の充実があるが、子育て支援については、保育所のような施設以外に、家庭や地域で子育てを支える仕組みの構築が重要な課題となる。この計画については、国の制度に基づいて行う部分と、習志野市独自の取り組みとして行う部分とあるが、地域の実情に即した制度にするためにも、委員の皆さまからご意見を頂戴し、短い期間ではあるが、習志野市の実情に即した計画を策定したいと考えている。

<B委員>

習志野市公共施設再生計画については、まちづくり会議の町会に基づいた区域で設定しているが、この子ども・子育て会議のニーズ調査の区域については、中学校区を区域として、調査・研究を進めるのか。

<事務局>

ご指摘のとおり、公共施設再生計画については、駅や町会単位に基づいた区分けで策定の検討が進められている。この子ども・子育て支援事業計画の区域については、習志野市は平成15年に7つの中学校区を基本にこども園を1つずつ設置する構想を立て、現在3つ目のこども園を整備し、さらに継続して取り組んでいく。このことから事務局としては、7中学校区に基づいた区域設定を検討をしている。ニーズ調査もこの7中学校区に基づいた分析がしやすいように実施している。

また、計画策定にあたっての区域設定については、改めてこの会議の中で諮り、最終的な決定をしていきたいと考えている。

<会長>

ニーズ調査は中学校区に基づいて実施したと説明があったが、乳幼児のみに特化せず、幅広い年齢の子どもに対する施策に関し議論が必要である。また、年齢や社会福祉サービスの領域の縦割りではなく、横断的な視点が重要である。

また、習志野市独自の施策があれば、必要に応じて説明してほしい。ニーズ調査を基にした習志野市独自の施策に対する意見の吸い上げ、また、習志野市の現状で対応できる事業などを議論することで、各区域で足りない施策や事業が見えてくるのではないかと。

(5) 習志野市子ども・子育て支援の現状について

<事務局>

(資料4に基づいて説明)

<C 委員>

各事業の現状や内容、実績について説明していただいたが、数字の実績だけではなく、利用者のご意見をわかりやすくまとめていただきたかった。保育所のニーズが高まっていることと同様に、どの事業のニーズが高いのか。また、この13の地域子ども・子育て支援事業の中で、今後、市が重要と考えているものは何か。それらを審議する会議の際には、市民の生の声がわかる資料をお示ししていただきたい。

<D 委員>

ファミリー・サポート・センター事業について、提供会員数が少ないように感じる。この原因について調査等を行っているのか。もし何か資料として提出できるものがあれば、いただきたい。

<子育て支援課>

ご指摘のとおり、提供会員がなかなか増えないことは課題となっている。

詳細については、事業を審議いただく際に資料として提出させていただく。

<E 委員>

人口や就学前児童数の推移の資料があるが、先ほど、ニーズ調査の区域設定の話が出たこともあり、そういった細かい区域での資料も提出していただきたい。

<事務局>

今回は第1回会議ということで、新制度に対して全体の概要がつかめるような資料に基づき、ご説明をさせていただいた。今後、審議を進める際には、審議の内容ごとに詳細な資料を提出させていただく。

<会長>

今後、事務局には、資料を作成する際に下記2点を留意していただきたい。

1. 習志野市の施策について、ハード面だけではなく、ソフト面からの評価、分析も記載する。
2. 市全体の数値とともに、区域ごとに分けた数値を記載する。

【 その他 】

「習志野市子ども・子育て支援事業計画」の基本理念・基本視点及び、「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画 第2期計画(素案)」を、次回会議の議題とする。

【 次回会議 】

平成25年10月17日(木曜) 17時~19時開催